

# 中外炉、脱炭素の新拠点

## 工業炉 研究開発力を強化



▲  
中外炉の主要拠  
点、堺事業所（堺  
市西区）内に「熱技  
術創造センター」  
を設ける。バーナーの部品加工などを扱う工場の建屋  
を大幅改装し、2  
提供）

堺事業所内に新設する「熱技術創造センター」のイメージ（中外炉工業提供）

中外炉工業は2023年11月に工業炉などでカーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）への貢献を目指す研究施設を堺市内に新設する。同社は機械部品に強度をもたらす熱処理炉や加熱

炉が強みだが、脱炭素化加速の潮流を受け、顧客からの二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出削減への要望が高まる。新拠点を工業炉の研究開発力強化に向けた中核と位置付け、次世代型製品の市場投入などにつなげたい考えだ。

中外炉の主要拠点、堺事業所（堺市西区内）に「熱技術創造センター」を設ける。バーナーの部品加工などを扱う工場の建屋を大幅改装し、2

階建て、延べ床面積7261平方㍍の同センターに再編する。投資額は約10億円。

新センターでは脱炭素や省エネルギー燃焼技術を開発する「燃焼ゾーン」、全固体電池電解質など、今後の需

要増を見込む注目素材

処理の開発に特化する「機能材ゾーン」、最新のデジタル機器など

を導入し、アイデア創出や外部連携強化を狙う「共創スペース」で構成の予定だ。

堺事業所内の既存2

研究棟もカーボンニュートラル需要に対応する「金属熱処理研究所」と、資源循環や環境負荷低減の技術開発に取り組む「ゼロエミ

ッション研究所」に名

称変更する。

一連の再編でバーナーの部品加工などは堺

事業所から車で5分程

度の堺センター（堺市

西区）に移管し、燃焼

熱、加圧などで豊富な

基盤技術を持つ。堺に

研究開発のノウハウを

結集し、脱炭素への対

応を加速させる。

中外炉は燃焼や電熱、加